

研究所訪問

秋田県衛生科学研究所

The Akita Prefectural Institute of Public Health

秋田県衛生科学研究所(宮島嘉道所長)(写真1, 2)は明治35(1902)年に「衛生試験所」としてスタートし, 昭和28(1953)年1月に「秋田県衛生研究所」に改称し, 昭和39(1964)年4月から現在の名称となった。秋田県衛生科学研究所はJR秋田駅から徒歩5分の市の中央部にあり, すぐ近くに佐竹藩20万石の居城であった久保田城跡にある千秋公園がある(図1)。昭和61年7月に現在の場所に新築移転したが, 建物は秋田県総合保健センターとして県民に知られ, 2棟が渡り廊下で繋がれている。建物は, 1棟に秋田県衛生科学研究所(写真中央鉄筋コンクリート造り5階建, 延べ面積4,583.9 m²), 他の1棟には1, 2階に秋田県総合保健センター, 3階に秋田県薬剤師会館, 4階に秋田県医師会館, 5階に秋田県看護センターが入っている。隣接して全国的に有名な県立脳血管研究センターがある。秋田県総合保健センターと県立脳血管研究センターの建物は明るい茶系統の色彩で統一されており, おちついた雰囲気の一区画を形成している。

研究所の組織は1課1室3部制で職員は30名で構成されており(図2), 主だった設備としてはバイオハザード室(P3規格)があり, 「つつがむし」病のリケッチャを培養して診断用抗原を作っている。秋田県では「つつがむし」病の発生が多いとのことである。環境部門の調査研究は別組織の秋田県環境技術センターで行われている。

秋田県は杉が有名であり, 杉は県木でもある。杉と聞けば花粉症を想像する方が多いと思われるが, 秋田県ではスギ花粉症の対策が県を挙げて行なわれており, 秋田県花粉症対策実施要綱, 秋田県花粉症対策実施要領が定められており, 衛生科学研究所に事務局がおかれている。秋田県



図1 研究所の名称および所在地
秋田県衛生科学研究所
〒010 秋田市千秋久保田町6番6号
TEL 0188-32-5005



写真1

には県内3地域(県北部, 沿岸部および南部)にスギ雄花芽調査の観測定点林が定められており, 毎年11年から12月に雄花芽の状況調査を行い, 次年度のスギ花粉の飛散量を予測している.

温泉関係の研究は理化学部で行われており, 地熱関連研究と人体への影響調査の2本柱で行われている. 通常の有料依頼の温泉中分析は, 県が基金を拠出して設立された財団法人秋田県分析化学センターで行われている. 平成9年現在, 秋田県で稼働している地熱発電所は大沼地熱発電所と澄川地熱発電所であり, 他の地区でも調査試掘が行われている. そのために, 秋田県衛生科学研究所では, 地熱開発地域環境調査を昭和52(1977)年からスタートし, 平成9年には八幡平地区(蒸の湯温泉, 澄川温泉, 赤川温泉, 銭川温泉, 志張温泉, 大沼温泉, 玉川温泉)と子安・秋の宮地区(奥山温泉, 小椋温泉, 豊明温泉, 大湯温泉, 多郎兵温泉, いこいの村温泉, 地熱センター, 鷹の湯温泉, 稲住温泉)の主として自然湧出泉を対象とし, 泉温, 湧出量, pH, 硫酸イオン, 塩化物イオン, フッ化物イオン, 炭酸水素イオン, メタ硼酸及びヒ素の成分調査を行い, データを積み上げている.

人体への影響調査としては「温泉の浴用効果に関する医学的調査研究」を保健所と共同で行っており, その成果は温泉気候物理医学会で発表されているとの事である. 人体実験となると, 協力して下さる被験者をさがすのが一苦労とのことである.

東北土木地質図(20万分の1)上に温泉の位置と泉質を示し, 片面に秋田県の温泉情報を記した「秋田の温泉・泉質図」1991年版という立派な印刷物が秋田県衛生科学研究所によって作成されており, 秋田の温泉を知るためには必読である.

温泉関係の仕事を一手に担当している武藤倫子氏の奮闘と, 秋田県衛生化学研究所の今後のますますの発展を期待したい.

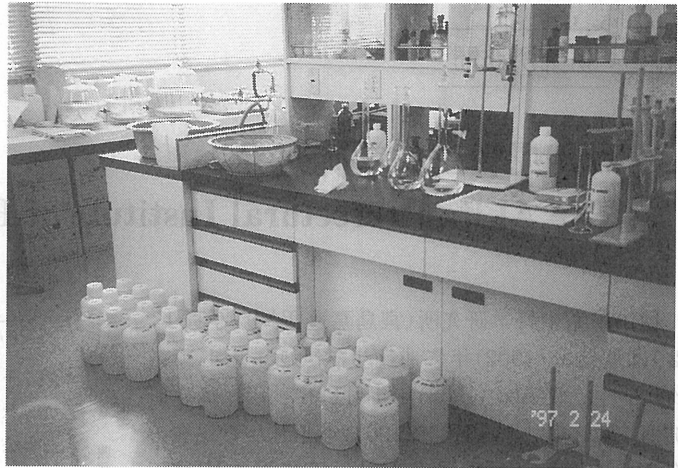


写真 2

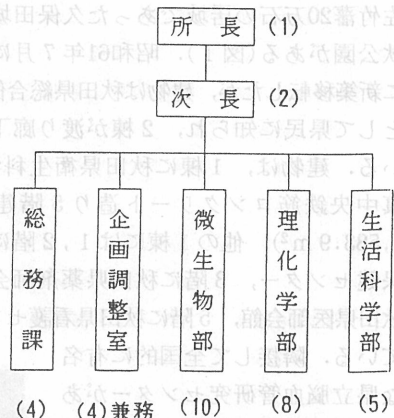


図2 秋田県衛生科学研究所組織図

東北土木地質図(20万分の1)上に温泉の位置と泉質を示し, 片面に秋田県の温泉情報を記した「秋田の温泉・泉質図」1991年版という立派な印刷物が秋田県衛生科学研究所によって作成されており, 秋田の温泉を知るためには必読である.

温泉関係の仕事を一手に担当している武藤倫子氏の奮闘と, 秋田県衛生化学研究所の今後のますますの発展を期待したい.

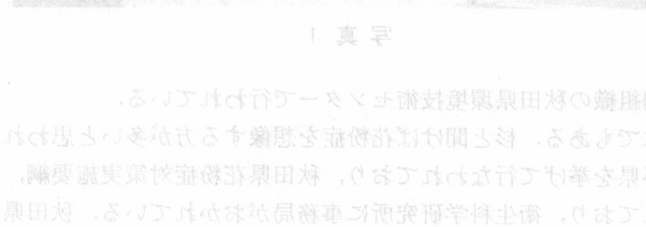


写真 3

群馬県藤岡保健所
酒井幸子
秋田県衛生科学研究所